

2016年3月25日(金)数理経済学会方法論部会 講演

## 社会が存在するとはどのようなことか —ニクラス・ルーマンの社会システム理論を手がかりに—

大阪大学大学院法学研究科 教授 福井 康太

### 0. はじめに

- ・自己紹介
- ・本講演を引き受けるに至った経緯
- ・本講演のアウトライン

### 1. コミュニケーションの総体としての全体社会

- ・社会とは何か
- ・社会学における社会の定義
- ・「人間」は社会の要素か
- ・行為とコミュニケーション
- ・コミュニケーションの要素

### 2. ダブルコンティンジェンシー

- ・ホプズ問題
- ・「自我」と「他我」:「両すくみ」からの脱出
- ・「時間」の投入と複雑性の縮減
- ・直接的観察(ファーストオーダー)の次元と観察の観察(セカンドオーダー)の次元
- ・静的安定性と動的安定性

### 3. バイナリーコードとコミュニケーションメディア

- ・社会システムの安定化と予期の機能
- ・システムと環境
- ・「規範的予期」と「認知的予期」
- ・複雑性の縮減とバイナリーコード
- ・シンボリックに一般化されたコミュニケーションメディア:貨幣、権力、真理、法....

### 4. 近代:機能分化した全体社会

- ・環節分化=太古社会
- ・成層分化=近代以前の高文化社会
- ・機能分化した全体社会=近代社会
- ・機能分化した近代社会の複合性
- ・グローバルな全体社会
- ※「経済」はどのように規定されるのか?

### 5. 結びに代えて:ルーマンの社会システム理論の射程

- ・「社会秩序のありえなさ」からの出発
- ・現に起こっていることの観察と記述
- ・「設計主義」の否定
- ・ルーマン社会システム理論のポテンシャル